

カトリック

広島教区報

No. 108

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

ご復活メッセージ・挨拶・じゃけえのう
司祭人事異動・予備神学校
ロイ新司祭叙階式
世界平和記念聖堂関連・J-CaRM
地区・海峡からの風・施設・青少年・ひと粒

一〇三面
四〇五面
六〇七面
八〇九面
十〇十二面

「教会へのチャレンジ」の ステップへ

広島教区長 アレキシオ 白浜 満 司教

主の復活のお慶びを
申しあげます



白浜満司教

この喜ばしき日に当たり、広島教区の神の家族の皆さんの上に、神様の豊かな祝福をお祈り申しあげます。復活された主イエスは、世の終わりに至るまで、いつもわたしたちと共にいてくださる方となられました。(マタイ二八・二〇参照)。そして、地上を旅している教会と共に歩み、聖書を紐解いて教え、パンを裂いてくださっています。この主イエス・キリストに信頼して、教区創立一〇〇周年に向けての歩みを先に進めていきたいと思えます。

教区創立百周年に向けて

広島教区では、教区創立百周年(二〇二三年)をふさわしく迎えるために、三段階のチャレンジを通して準備を進めていく計画を立てました。第一段階は「家庭へのチャレンジ」(二〇一四年四月〜二〇一七年三月)、第二段階は「教会へのチャレンジ」(二〇一七年四月〜二〇二〇年三月)、第三段階は「社会へのチャレンジ」(二〇二〇年四月〜二〇二三年三月)です。三

主のご復活おめでとうございます

広島教区長 白浜 満 司教
司教総代理 荻喜代治 神父

教区本部事務局 服部大介 神父
平和の使徒推進本部 野中 泉 神父
広島司教館 豊田尚臣 神父
齋藤眞仁 神父

下関協働体(細江・長府・彦島) シケ 修道士
下関労働教育センター(細江・彦島主任) 百瀬文晃 神父
(長府主任) アルテリヨ神父
(所長) 中井 淳 神父
(協力) 林 尚志 神父

岡山・岡山南主任 瀧井英昭 神父
(岡山協働体) ミッシェル神父
(玉野主任) 岡山南協働体 トウアン 神父
(津山主任) ワーレ 神父

広島地区(地区長) ヴィタリ 神父
山口・島根地区(地区長) 李 相源 神父
岡山・鳥取地区(地区長) 荻喜代治 神父
広島協働体(鞆町・東広島・三篠・翠町・観音町・祇園・可部・廿日市)
(鞆町・東広島主任) ヴィタリ 神父
(主任) 服部大介 神父
(協力) 大西勇史 助祭

宇部協働体(全部・北若山・高千帆) (主任) 片柳弘史 神父
(主任) 猪口大記 神父
(協力) 三喜田虎太神父
(協力) 池尻廣幸 神父
(協力) オレギ 神父
(協力) 西山和男 神父

倉敷協働体(笠岡・倉敷・玉島・水島) (笠岡主任) 玉島協働体 山口道晴 神父
(倉敷・玉島・水島主任) バルト 神父
(主任) 金 洪錫 神父
鳥取協働体(鳥取・倉吉) (鳥取主任) 野崎一夫 神父
(倉吉主任) 朴 孝鎮 神父

三次協働体(三次・向原・呉) (三次・向原主任) 金 楹深 神父
(主任) 安リ 神父
(廿日市主任) アンリ 神父
(鞆町・可部主任) 加藤信也 神父
(主任) 作道宏三 神父
(観音町主任) 野中 泉 神父

岩徳協働体(笠岡・光・柳井・下松・徳山) (笠岡主任) 福田誠二 神父
(主任) 肥塚修司 神父
(下松主任) 原田豊巳 神父
(徳山主任) 柴田 潔 神父
(協力) 高橋義博 神父
(協力) 高橋義博 神父

イエスス会 庚午修道院 (イエスス会) 長束修道院
イエスス会 長束修道院 (イエスス会) 長束修道院
ヴェーリマイヤー神父
堀谷恵策 神父
曾根忠明 神父
裏辻洋二 神父
アレックス神父
河村剛 修道士

備後協働体(三原・尾道・福山) (三原主任) 西江和司 神父
(尾道・福山主任) アルナルド神父
(主任) フレデリック神父
山口協働体(山口・地福・防府・萩) (山口・地福・防府主任) 李 相源 神父
(主任) カンガス 神父
(協力) モレノ 神父
(協力) 桜井彦孝 神父

伯耆協働体(松江・出雲・米子・境港) (松江・出雲主任) 後藤正史 神父
(主任) 金 起煥 神父
(米子・境港主任) 荻喜代治 神父
島根協働体(津和野・浜田・益田) (津和野主任) 山根敏身 神父
(主任) 山根敏身 神父
岡山協働体(岡山・岡山南・西天寺・ロザリ) (浜田・益田主任) 清水 弘 神父
(主任) 清水 弘 神父
(協力) 清水 弘 神父

愛徳修道士会
ヘンデリクス修道士
牧田真一修道士
ホンテレー修道士

つのチャレンジは密接な関連性があり切り離すことができないものですが、一つひとつの側面を意識しながら、教区内のそれぞれの共同体の現状を振り返ることは、有意義ではないかと思えます。

「教会へのチャレンジ」の三重の側面

いよいよ、これから「教会へのチャレンジ」という第二段に入りました。その準備のために、広島教区内で働く司祭団は、二〇一七年二月二七日(月)～二八日(火) 司祭大会を開催しました。そこで「教会へのチャレンジ」とは、教会の自己刷新の取り組みであることを確認し、主イエス・キリストから委託された、①「祈る使命」(祭司職)、②(福音を)伝える使命(預言職)、③(隣人に)仕える使命(王職)をよりよく果たしていくため、一年毎に一つひとつの使命をクローズ・アップしてみることを申し合わせました。これら三つの使命に

は深い結び付きがあり切り離すことはできませんが、改めて一つひとつの使命に留意しつつ、教区内の各共同体が、その使命をよりよく果たしていくことができよう、個人としての、また共同体としてのチャレンジに励んでいきたいと思えます。同時に、そのためには、種々の事情のため教会から遠ざかっている兄弟姉妹を迎える取り組み(配慮)を大事にしていきたいと思えます。

「祈る使命」を振り返る

わたしたちは、まず二〇一七年度に、教会の「祈る使命」(祭司職)について振り返り、必要な刷新を図ることができよう取り組んでいきたいと思えます。そのためにまず、入信(洗礼・堅信・聖体)の恵みによってわたしたち一人ひとりがキリストに結ばれ、そして、今もすべての人の救いのために祈り続けられているキリストの使命にあずかっていることを心に留める必要があります。

そして、絶えず秘跡の恵み(聖体、ゆるしの秘跡、病者の塗油)に近づくことが大切です。とくに主日のミサは、キリストと共に祈る教会共同体の優れた祈りの場です。そしてミサの恵みに支えられて、日々の生活の中で誰かのため(何かのため)に、さらに祈り続ける個人的な習慣を身に着けることができれば幸いです。

よりよく使命を果たす体制づくり

日本の教会も、とくに少子高齢化という社会の深刻な状態の煽りを受けて、ある意味で「危機的な状況」にあります。信徒の高齢化に伴い、教会の諸活動の維持も困難になりつつあります。司祭・修道者の召命も減少し、青年層の教会離れも深刻です。このような種々の困難な状況の中で、主イエス・キリストから委託された①「祈る使命」(祭司職)、②(福音を)伝える使命(預言職)、③仕える使命(王職)をより

じゃけえのう

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね」という意味。

昨年五月から十月、熊本でカリタスの支援センターのスタッフとして働かせてもらった。熊本行きを決めた理由は、言い方が悪いかもしれないが「自分のため」である。東日本大震災の時は、仕事や色んな言い訳を理由に、実際、現地に行ってお手伝いすることが出来なかったのも、「何も出来なかった」という思いを抱えて過ごしてきた。そして今回たまたま自由に動ける状況にあったので、後悔しないために思い切って行動することにしました。もちろん不安はかなりあった。目の前の出来ることだけをしようと思っていたものの、自分は本当に力になるのか、そもそもどんな顔で被災地に行けばいいのか想像が出来なかったからだ。

しかし実際に活動してみると、被災した家の片づけにおいては、自分の家に住めなくなり大変な状況にも関わらず、ボランティアの人たちのために色々差し入れをしてくださる家主さん。避難所に行く、孫が遊びに来たかのように笑顔で迎えてくれるおじいちゃん、おばあちゃん。同級生みたくに接してくれる子どもたち。お手伝いをしに行っていたはずが、逆に面倒をみてくれたり、元気をもらったり。今回、目の前の誰かのためにする行いが、それと同じぐらいか、それ以上に自分もしてもらっていること、沢山の人が助けられ、支えられていることに改めて気づき、人と人との関係はこうあるべき、ということが少し見えた気がした。正直、これからの人生にどう活かせるのか明確なものには、今は、はつきりと言葉に出来ないが、この貴重な経験を活かせるように、これからも行動していきたいと思う。

(呉教会 楠本仰司)

よく果たしていく体制を整えるため、広島教区では、近隣の小教区の司祭・修道者・信徒の相互協力を促すため、一年間の準備期間を設けて、「協働体制」を導入していきたくと考えています。

「協働体制」の導入というチャレンジ

しばしば複数の小教区の集合体が「ブロック」と呼ばれています。広島教区内でも、意図的に、あるいは自然な流れで「ブロック化の動き」がみられました。これは、司祭・修道者の召命の減少と、信徒の減少という要因によるものかもしませんが、少数ではあっても司祭・修道者・信徒が互いに協力し助け合いながら、よりよくその使命を果たしていく教会の新しい体制づくりは、必要です。わたしたちは、復活された主イエス・キリストと聖霊が、教会に現存して働いてくださることに信頼しながら、今、自分たちができるチャレンジに取り組むため

「協働体制」を導入したいと思えます。

そのため(意図的であれ自然な流れであれ)、広島教区でみられるブロック化の動きを教会法的にも問題が生じないように調整し、四一の小教区、六つの巡回、二つの集会所を、暫定的に一二のグループにまとめ、それを「協働体」と呼ぶことにしていきたいと思っています。しばしば用いられている「ブロック」は、主に地理的範囲(単位)を意味し、同時に閉鎖的なニュアンスが感じられる言葉です。そのため、広島教区においては、チャレンジの三つの精神(平和、きょうどう、養成)の「きょうどう」という言葉に因んで、「信徒・修道者・司祭が相互に協力し助け合いながら、ともに責任をもって働く共同体(神の家族)」であるという意味を含めて、「ブロック」ではなく「協働体」という名称を用いて、その「協働(きょうどう)のあり方」を具体的に検討していく準備の一年にしたいと思いま

す。まずは今年度から、そのスタートとして、司祭同志の緩やかな相互協力から始め、修道者・信徒にもよく説明し、話し合う場を設けながら、徐々によりよい「協働」のあり方を確立していくことができると思っています。

暫定的な一二のグループは、さらに大きなまとまりとして、三つの(岡山・鳥取/広島/山口・島根)地

広島教区司祭大会

服部大介神父



幟町教会のマリアホールで白浜司教の話を聞く司祭団

区に所属しています。この「協働体制」は、三つの地区内の廃止ではなく、さらに小さな区分に過ぎません。この三つの地区は、これまで通りの役割を担って行きます。

ファティマでの聖母出現の百周年にあたって

聖母マリアは教会の誕生

二月二十七日(月)二十八日(火)、広島カトリック会館とマリアホールを主会場として、広島教区司祭大会が行われました。右記の司教メッセージにあるように、これからのテーマ「教会へのチャレンジ」のために、まずは司祭団に対して「新しいチャレンジに向けて準備する」という内容で、司教自身の思いを語られ、いくつかの提案をされました。現在広島教区の主に小教区で働いている司祭は五十数名ですが、そのうちの四十五名の司祭・助祭が参加してくださり、司教の思いを受け取り、提

の時から地上を旅する教会を見守り、祈り続けておられます。ちょうど、今年には、聖母マリアがポルトガルのファティマで三人の牧童に出現されてから百周年に当たっています。創立百周年に向けて、「教会へのチャレンジ」の三年間に入る広島教区の歩みの上に、教会の母である聖母マリアの取り次ぎを願いたいと思っています。

案に対してそれぞれの意見を語る事ができたように思います。「協働体制」への導入ということに対して、まずは緩やかなつなごりを作り、どのような協力ができるのかなどを分かち合うことができました。

最後に司教の司牧視察(公式訪問)に関する指針も出され、公式訪問時にはこうあってほしいという具体的な提案がなされました。これから各小教区で公式訪問が行われると思いますが、この取り決めに沿って準備をすることになりまのでどうぞよろしくお願いたします。

広島教区 司祭人事異動 (新任地 ↑ 前任地)

*異動時期はいずれも復活祭明けから

《イエズス会》

アルバレス神父

教区外へ↑三次

中村健三神父

観音町在・三篠主任

↑広島市内チーム

清水弘神父

益田・浜田主任

↑宇部協力

西山和男神父

宇部協力↑浜田主任

山根敏身神父

津和野主任

↑津和野・益田主任

中井淳神父

下関労働教育センター所長

↑教区外

小崎次郎神父

みこころの家

↑防府教会主任

《淳心会》

ウイル神父

教区外へ

↑岡山・岡山南助任

《ミラノ宣教会関係》

アルナルド神父

福山・尾道主任

↑三原主任

《釜山教区司祭》

釜山教区へ↑呉主任

金起瑩神父

釜山教区へ↑呉主任

金楹深神父

釜山教区へ↑呉主任

倉敷・玉島・水島助任

↑釜山教区から

《教区司祭》

深堀升治神父

呉主任↑松江・出雲主任

豊田尚臣神父

司教館付

↑広島市内チーム

齋藤眞二神父

司教館付↑観音町主任

肥塚倅司神父

光・柳井主任

↑広島市内チーム

澤野耕司神父

さいたま教区へ移籍

↑さいたま教区出向

瀧井英昭神父

岡山・岡山南主任

↑福山主任

後藤正史神父

松江・出雲主任

↑光・柳井主任

津和野 乙女峠まつり



2017年 5月3日 (祝・水)

10:30 聖母行列 (津和野教会~乙女峠)

12:00 野外ミサ (乙女峠)

司式者 郡山 健次郎 司教

(鹿児島司教区教区長)

*司祭はアルバとホストラを持参

浦上四番崩れ 150周年

5月2日 (火) 前夜祭

「しるしとなって生きる」

時間: 19:00~
講演: 郡山 健次郎 司教
場所: 菊花園ホール

- 【お知らせ】
・津和野での宿泊の手配は、観光案内へお問合せください。
津和野観光案内 電話 0856-72-1771
・昼食弁当 (お茶付き 700円) ミサ後峠販売テントにて引き渡し申し込み。
くぼた弁当 (電話/FAX 0856-72-1139)
つむぐ SHOP (電話 0856-73-7028) (FAX 0856-73-7027)
・餅より下りての昼食 (800円~1500円) をお望みの方は下記店と交渉してください。
遊集 (電話 0856-72-0162 FAX 0856-72-3246)
隈外村ふる里 (電話 0856-72-1860 FAX 0856-72-1815)
沙羅の木 (電話 0856-72-1661 FAX 0856-72-0372)
・雨天決行



津和野カトリック教会

〒699-5605 島根県鹿足郡津和野町殿町 電話 0856-72-0251 FAX 0856-72-0282

2017年度予備神学校

- 日程: ①6月17・18日
②9月17・18日
③11月25・26日
④2018年2月24・25日

対象: 小5・小6・中高校生の男女

場所: 世界平和記念聖堂

参加希望者は、各小教区の主任司祭にお問合せください。

第十二回予備神学校

第十二回予備神学校が職町教会ラサール会館にて開催された。後藤神父、金キヨン神父、フレデリック神父参加のもと、初日は地下聖堂にてテゼの祈りから始まり、レクリエーション、実践教理、神父様のお話、二日目は分かち合い、1981平和アピールミサにて白浜司教の講話に耳を傾けた。

フレデリック神父からは「コンゴ民主共和国のカトリック教会の現状について



予備神学校の参加者 聖母幼稚園ホールで

枝などの自然の素材や珠、紐など感覚で捉えられる材料を使って床絵など創意工夫した表現を行い、共同体と共に分かち合いながら、特に身体言語及び感覚を通して内面化に至り

「のお話。人口の八十%がキリスト教徒、そのうちの五十%がカトリックである事や、政情不安のため教会が避難所になっている現状、青少年の活動がとても盛んな事、また現地でのミサの映像を見せてくださり、踊りを多く用いている様子に子どもたちからは楽しそうとの声が多く聞かれた。第一回から予備神学校では実践教理教育と呼ばれる方法が行われている。「感覚を中心を置いた総体的な教理教育」とも呼ばれる。布、石、土、種、木の枝などの自然の素材や珠、紐など感覚で捉えられる材料を使って床絵など創意工夫した表現を行い、共同体と共に分かち合いながら、特に身体言語及び感覚を通して内面化に至り

垣間見る事ができ、大人スタッフにとつて大きな喜びとなっている。

そして今回は金起瑩神父キヨンが韓国に帰国されるため、特別な回となった。最後の挨拶の中で、自身も韓国で予備神学生として、授業を受けてきた、これがなかったら司祭になつていなかったかもしれない、予備神学校が召命の良い畑場となる

（翠町教会 伊藤正広）

事を信じていますと力強く話して下さった。

金神父には十三年もの間広島教区のためにご尽力くださり、いくら感謝の気持ち伝えても足りないくらいである。日本の召命に対して本気で取り組んで下さった金神父の熱情を信徒は決して忘れないであろう。

二〇一七年 司祭・修道者のダイヤモンド・金・銀祝

◆ダイヤモンド祝六十周年◆

《イエズス会》三次教会
Fr. アルバレス・アルベルト 一九五七年 三月二十四日 叙階

《カルメル修道会》教会の母マリア修道院
Sr. 長 康子 一九五七年 六月九日 初誓願

《援助修道会》おおよそ共同体
Sr. 天野洋子 一九五七年 六月二十一日 初誓願

◆金祝六十周年◆

《福音の光修道会》広島修道院
Sr. 梶岡初枝 一九六七年 四月五日 初誓願

《ナミュール・ノートルダム修道会》倉敷修道院
Sr. 前川りり 一九六七年 四月十六日 入会

Sr. 三宅聖子 一九六七年 四月十六日 入会

《ナミュール・ノートルダム修道会》広島修道院
Sr. 宮崎俊子 一九六七年 十月十日 入会

◆銀祝二十五周年◆

《イエズス会》萩教会
Fr. 恩地誠 一九九二年 十一月二十八日 叙階

《イエズス会》長束修道院
Fr. バリカマカル・アレックス 一九九二年 八月八日 叙階

ベトロ ホアン・ドゥク・ロイ神父 司祭叙階式



共に祈りを捧げる、お母様とロイ新司祭

叙階式で、喜びを分かち合うロイ新司祭と白浜司教



三月二十日（月・祝）聖ヨセフの祝日、十三時から岡山教会で、ベトロ ホアン・ドゥク・ロイ助祭の司祭叙階式（広島教区・ベトナム出身）が行われた。広島教区でのベトナム出身者の司祭叙階は、二〇一三年叙階のトゥアン神父（玉野教会主任）に続き二人目となる。叙階式は、ベトナムからロイ新司祭の出身教会であるヴィンワ教会の主任司祭、新司祭の家族親族、また多くの、司祭、修道者、信徒など六百名が参列し盛大に行われた。主司式は、白浜司教。約五十名の司祭団と共にミサが捧げられた。また、白浜司教より初めての赴任教会は岡山教会となることが発表された。

ロイ新司祭について 白浜満司教

わたしが広島教区に着任する前に、日本カトリック神学院で、ロイ神学生（新司祭）と一緒に生活させていただきました。ロイ新司祭は、熱心な信仰の持ち主でまじめな方です。同時に、笑顔で明るい性格であり、サッカーや畑仕事を趣味としています。料理の腕もなかなかです。

少々の困難にもめげないタイプですが、少し寂しがり屋かもしれません。とても深みのある人間性の持ち主です。

皆さん、これからじっくりと、ロイ新司祭を味わってください。広島教区に与えてくださった神に感謝！

努力家「ロイ」、 今が、出発の時、 荻喜代治神父

外国人の神学生は、来日して二年間、日本語の勉強をし、ロイ神父の時代は日本語二級の取得が必要でし

た。二年目も、三年目も、あと点数不足で不合格でした。「もう無理だから、帰国します」と、強い決意を伝えて来ました。「数点だけの不足だから、あと一回だけチャレンジしてほしい」と伝え、やっとの思いで続けることになりました。その後、南山大学でも日本語、日本文化を学び、最終的には神学校内・認定試験で、二級程度と認められ、入学が許可されました。入学までの長い忍耐の時でした。

彼は、いつもこの様に陰ながら、コツコツと努力をし、哲学、神学を学びながら、日本語能力試験一級も取得しました。

二〇一七年、三月二十日、広島教区司祭に叙階されました。「今が、出発の時」「今からが大切な時」です。

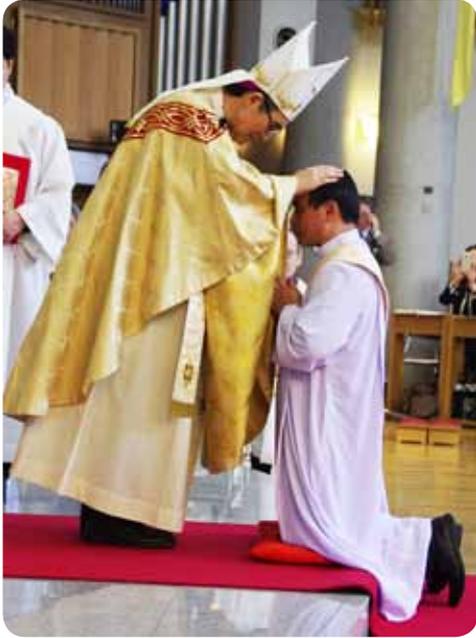
永い司祭生活の中には色々なことが待っています。いつも、誰に対しても謙虚に接しながら、キリストの司祭職を最後まで生きてください。

ロイ神父に期待する 後藤正史神父

ロイ神父と言えば、まず笑顔に包まれている姿を思い浮かべます。これからは、まさに福音、喜びの知らせを人々に伝えるにふさわしい雰囲気漂わせなが



参列者全員での集合写真



上、叙階の儀の様子 床に伏すロイ新司祭
下、司教の接手を受けるロイ新司祭

ら、司祭の道を歩んでいかれることを共に喜びお祝いします。神学生時代のロイ神父との交わりにおいて、いちばん魅かれたのは純粋かつ誠実さという点です。それぞれの教会は、いろいろな人がおり、様々な出来事がある世界ですが、自分自身の持ち味を失うことなく、保っていつてほしいと念願します。ある哲学者が言います、「現代社会は人間が死滅しつつある世界」だと。いちだんと深刻な葛藤、分断の状況に追い込まれているこの社会、この世界。そのような「今こ

こに」主キリストから呼び出され、派遣されてゆくロイ神父が教会共同体の牧者として、信者と共に、世を照らす主の光を多くの人々に誠実に伝えていつてほしい。わたしたち広島教区に共に働く司祭をお与えくださった神様、ありがとう。

**ロイ神父様 司祭叙階
おめでとつございます
岡山教会 原田尚子**

岡山教会の皆さんからすると、もつと親しみを込めて「ロイさん、おめでとつございます！」と申しあげたいと思います。
ロイさんが「私が司祭に叙階されるまでお元氣

でいてください。」と願っていた早副神父様をはじめ帰天された神父様方、三末司教様もきつと天国で喜んでくださっていることでしょう。
私とロイさんとの関わりは十年前の二〇〇七年からです。ロイさんは神学生候補者として来日され岡山教会で生活を始められました。当初は全く日本語が話せないのと、私も事務所に勤務して一年目。どのように接したら良いか戸惑ったのを覚えています。日本語の習得、生活習慣の違い日本での神父様方との共同生活：大変なご苦労があったと思います。言葉にすると限りがありません。しかし



岡山教会聖堂内 叙階式

その後、神学校に進まれてからは、休暇で岡山に戻って来る度に自信をつけ神学生として司祭への道を歩んでおられる姿は頼もしくもあり、いつも何事にもめげず、謙虚な姿勢で懸命に取り組んでいる姿は私にとつても大変励みとなりました。

してのスタートに、時には息子のように、友人、兄弟のように関わってきた岡山教会の信者の皆さんと共に応援のエールを送ります。神様のよき働き手としてこれからのロイ神父様のご活躍を心からお祈りしております。

ここ数年、ベトナム人の信者の皆さんのパワーは素晴らしく岡山教会の信者さんたちも圧倒される程です。この度の司祭叙階式も彼らの助けがなければ成功しなかったと思います。
ようやくここまで来ました。新たな司祭と



ベトナムから叙階式に参列されたお母様、親族に祝福を与えるロイ神父

重要文化財 世界平和記念聖堂 記念聖堂の地盤改良工事が完了

司教座聖堂「世界平和記念聖堂」の耐震補修工事は、第一期工事（二〇一六年度事業）が予定通り完了した。引き続き四月より第二期工事が始まる。

第一期工事では、鍾塔の地盤改良工事、聖堂の聖歌隊席に昇る階段室の耐震補強工事、聖堂内のステンドグラスの取り外し工事が行われた。鍾塔の地盤改良工事は、直径二・五メートル深さ十メートルと直径四メートル深さ二十五メートルの杭を鍾塔の周りに計二十七本打設し、四十五メートルの高さの鍾塔が大



地盤改良工事の様子

規模地震の際に傾かないように基礎を補強した。多くの杭は、大型のクレーンや掘削重機を使って屋外で施工されたが、鍾塔一階の小聖堂と大聖堂を連絡する通路では、特殊な小型の掘削機材を使って、直径二・五

メートル深さ十メートルの杭を二本打設した。狭い室内での難しい作業であった。また、この通路のタイロ張りの床は、杭工事に必要な範囲でタイルを一枚ずつ慎重に剥ぎ取り、杭工事の後に復元した。文化財保存事業ならではの手間のかかる工事であった。

同様に、階段室の耐震補強においても文化財ならではの保存修理の困難さが見られた。この階段室は楕円形の回り階段で、階段に沿って壁がカーブしている。耐震工事では、このカーブした壁の裏にある鉄筋コンクリートの柱や壁を補強する。このためカーブした壁を一旦除去する必要



ステンドグラスを取り外すための足場の様子

がある。文化財の保存修理という観点から、壁を単純に破壊、除却することが許されないため、カーブした壁のモルタル仕上げを剥ぎ取り、壁の下地を確認しながらの作業となった。この結果、壁の下地はレンガ積みであることが分かり、これを保存する必要が出てきた。レンガ積みの壁を適当な大きさのブロックに切断して搬出し、柱や壁の補強工事を行った。その後、解体したレンガブロックを元の場所に復元するという手間の掛る工事となった。工事が終われば廻り階段のカーブした壁の奥は隠されてしまうのだが、建設当時の施工技術や仕様などを知

ることも文化財保存事業の目的とすることで、やむを得ない作業であった。ステンドグラスの改修工事は、鋼製サッシからステンドグラスを取り外し、埼玉県にあるステンドグラス工房に搬出した。天井近くの高窓のステンドグラスを取り外すため、聖堂内に仮設足場を設けての作業となった。聖堂内の信者席、聖歌隊席の配置が大幅に変更され、主日のミサなどで皆様にご不便をお掛けすることになった。



ステンドグラスの取り外し

四月からの第二期工事は、聖堂の脇玄関と鍾塔上階の耐震補強工事、外壁の

世界平和記念聖堂募金 郵便振替口座

口座名：カトリック広島司教区
口座番号：01320-3-109791

* 通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

補修工事と大屋根の葺き替え工事を引き続き行う。すでに文化庁から予算が内示され、当初計画のとおり、事業が進められる予定である。引き続き、ご理解、ご支援、特に募金活動への協力をお願いいたします。

なお、広島市現代美術館では、世界平和記念聖堂を起点とする「村野藤吾展」が五月中旬から開催される予定。多くの人が展覧会を見ることによって、記念聖堂への理解が広まることを願っています。皆様の周りにおられる方々にお知らせください。広島市から詳細が発表され次第、皆様にご案内します。

(世界平和記念聖堂・保存活用委員会)

アンドレア金起瑩神父
キヨン
十二年間の派遣契約を終了して帰国

永遠に來ないかと思っ
 ていましたが、自分にもこ
 ような時が参りました。こ
 れも神様の不思議な業の一
 つだと思えます。

司教様から感謝状と花束
 を頂きました。司教様、あ
 りがとうございました。

二〇〇〇年に姉妹縁組が
 できて日本に教区司祭とし
 て派遣されました。そのう
 ちにいろいろな国の神父様
 方と一緒に同じ地区や小教
 区で汗をかきながら働いた
 ことは今でも自分の心の誇
 りとして残っています。そ



広島教区司祭大会の懇親会で、白浜司教(左)は、
 金起瑩神父に感謝の気持ち伝えた

して姉妹縁
 組の本当の
 意味、アジ
 アの国々の

間で壊れてしまった平和の
 回復のために神様がどのよ
 うな道を示して私たちを呼
 び集め、どのように平和を
 取り戻してくださるのか、
 この広島で働きながら本当
 に色々実感させていただ
 きました。

これから韓国釜山教区に
 帰りますが、帰国後も変わ
 らず姉妹縁組としての絆を
 大切にしたいと思えます。
 また、釜山に来ておられる
 日本人の方々、信徒の皆さ
 んがたくさんいらつしやる
 と思えますが、その方々と
 この絆を深めるために、何
 か広島教区での体験を生か
 すことができなかなと最
 近思っているところです。

まだまだ未熟だと思いま
 す。これからの司祭として
 の歩みに神父様方の祈りと
 声援をいただきながら頑
 張っていきたいと思いま
 す。本当に今まで支えてく
 ださってありがとうございます。

(金起瑩神父)

J-CARM広島便り
「さよなら」ではなく「また会う日まで」
 イエス孝女会 松江修道院
 Sr.マリアニータ・テニョツ

日本での私の二十四年間の宣
 教活動の中で、十四年間は島根
 県での活動でした。ミッシヨ
 スクールに派遣され、一九九五
 年に松徳学院で中学生や高校生
 に英語を教えるよう要請されま
 した。そして月に一度、米子教
 会のフィリピン人移住者とも
 に活動するよう頼まれました。
 五年間、約二十五名のフィリピ
 ン人の母親に、霊的養成、信仰
 教育を行い、彼女らの子どもた
 ちが秘跡を受けるための準備も
 行いました。主任司祭の野寄神
 父様の助けもあり、日本人と
 フィリピン人の共同体がどのよ
 うにして、ゆつくりと、お互い
 に「よりフレンドリーに」そし
 て「より親しく」なっていって
 目をの当たりにしました。

者と活動するよう求められ、そ
 れは私が二〇〇四年に群馬県に
 派遣されるまで続きました。
 それから七年後ですが、私が
 松江に帰って来て、再び松徳学
 院で英語を教えることになり、
 週末にはフィリピン人移住者と
 活動しました。出雲教会で高橋
 神父様、その後、キム神父様と
 ともに、Sr.ロサリオの活動を引
 き継ぎました。Sr.カルメンが
 二〇一五年に常総での仕事に任
 命されたとき、深堀神父様と
 もに松江教会でフィリピン人
 のお世話をしました。去年、リカ
 ルド神父様と一緒に、米子、松
 江、出雲のフィリピン人グルー
 プをまとめて、共同の活動と信
 仰の養成をしました。
 振り返ると、この十四年間は
 恵みの期間であり、また、私に
 日本での宣教師として成長する
 豊かな機会を与えた期間であり
 ました。島根に来たときは「見
 知らぬ人」でしたが、今年三月
 二十八日には数えきれない「友
 達」を残していきます。日本人
 もフィリピン人も、私の宣教師
 活のうれしいときも悲しいとき
 も、出会い、そして神様を見つ
 けることを教えられました。去
 年、荻神父様が、広島司教区の
 J-CARMの会議に誘ってくださ
 り、移住者のために親身になっ
 て世話をされる白浜司教様、神父
 様たち・シスター・たち、信
 徒の友達が増えこれ以上の幸
 せはありません。友達の間で
 は、「さよなら」はありません。
 古いことわざのとおり、
 「また会う日まで」だけで
 す。それで、皆さんに、私は
 「さよなら」ではなく「また
 会う日まで」と言います。
 最後に、イエス様に感謝の
 気持ちで私の胸は張り裂けそ
 うです。「全世界に行つて福
 音を宣べ伝えよ。私はいつも
 あなた方とともにいる！」と
 言われたとおりに、私自身に
 ついても含め、宣教に関わる
 一つ一つのお約束をお守りに
 なるからです。

日本人の教区の皆さんは、
 フィリピンの六月の「フィエ
 スタ」(祭り)、五月の「サ
 ンタクルーザン」(マリア様の
 行列)に参加し、クリスマス
 を祝うフィリピン人のやり方
 を楽しんでいました。二〇〇二
 年には、肥塚神父様、そして後
 は、原田神父様と、松江の移住

白浜司教を囲んで



イエス孝女会のシスターズ
 白浜司教を囲んで

地区便り

山口島根地区

二〇一七年度山口島根地区の主な行事予定

***カトリック障害者連絡協議会、ミサと総会**

日程：五月十三日(土)
時間：十時～十四時
場所：宇部教会

***信者養成講座**

講師：百瀬文晃神父
テーマ：イエス・キリストを学ぶ

日程：5月20日、6月10日、7月8日、9月16日、10月21日、11月11日

時間：十時半～十六時まで
場所：細江教会

***キリシタン至福の里野外ミサ**

日時：五月二十日(土) 十一時～

場所：紫福(萩市)

***社会教説宿泊研修会**

日程：七月一日(土)～二日(日)

場所：下関労働教育センター

***「広島教区の日」とダイヤモンド金銀祝・地区大会**

日程：九月十八日(月・祝)
場所：山口サビエル記念聖堂

***音楽メデイテーション 三百回記念演奏会**

日程：九月三日(日)
時間：十四時～

場所：山口サビエル記念聖堂

***教区合同祈りの集い**

日程：十月二十日(金)
場所：山口サビエル記念聖堂

***傾聴ボランティア養成講座**

講師：Sr.小野恭世 (イエズス孝女会)
日程：9月9日(土)～10日(日)、11月18日(土)～19日(日)

場所：山口天使幼稚園ホール

***山口島根地区典礼研修会**

講師：白浜満司教
日程：十二月十六日(土)
場所：徳山教会

岡山鳥取地区

***教皇ヨハネ・パウロ二世 来日記念「平和アピール1981」**

現代の踏み絵、死の文化 かいのちの文化か

二月二十六日、倉敷教会に於いて教皇ヨハネ・パウロ二世「平和アピール1981」記念行事が行われました。講師は光・柳井教会の後藤正史神父を迎えました。



倉敷教会聖堂内の様子

過去の戦争、現在の日本の社会情勢を振り返りながら、キリストを信じる私たちの回心とは、何を大切に生き何を基準に考え、生きていく上での心の基本姿勢を変えることだとお話されました。信仰の原点に立ち返り、神とのつながりを深め、教会内外の人々の悩み、苦しみの現実に近いき、関わり寄り添う道を選び取るという一貫した姿勢をもつこと、自分自身が変わると、世界は変わる、変えられるという絶対的確信を持つことを言われました。

神の独り子は限りない愛ゆえに同じ人間となり、徹底して人々と共に生き、後に死と復活によって人間に神とのつながりと互いのつながりを取り戻させてくださいました。

海峡からの風 44

下関労働教育センターだより

広島教区に生きること

海外で日本のどこからと聞かれると、広島教区で働いている司祭ですと答えます。「ヒロシマ」という言葉は、どんな名刺の肩書より通じる、と思っっています。キリスト者として広島教区に属すること、揺らぐことの出来ない人間の歴史の芯の上に生きていくように感じます。さらに国籍・民族・思想・宗派を越えて世界の人々の中に、その芯からの躍動が広がってもいます。

しかし、最近の日本国家の権力構造の動き・流れは、その芯からどんどん外れて、何かに引つ張られて流されているようです。軍事力は核兵器をその最強の武器としています。もはや二度と人類はいかなる規模・理由によっても使用できない筈です。にもかかわらず、多様な対立には軍事力(戦争)の抑止力を発揮しています。それで核兵器は最大の抑止力であり、自国の利益拡大・覇権に為には捨て

ることの出来ない軍事力に成っています。「ヒロシマ・ナガサキ」の後も核兵器の廃絶が出来なかった核保有国と、核開発・保有・使用の抑止力・恫喝へ道を進もうとする国家との間の軋轢の中で時が経過しています。さらに核の平和利用の欺瞞と物的生活の豊かさに引き回されて、鋭い預言的警告にも従えず、福島原発事故の悲惨な結果から、やっと芯からの外れとぐらつきに気付くのです。核廃絶(核兵器・原発)は「ヒロシマ」の常時優先課題ではないでしょうか。その課題への学習・思索・対話・発言・行動・連帯は広島教区の絶えざるチャレンジだと思います。

ここで食い止めないと、一気に崩れ落ちる際とさを感じるのに、引つ込み思索の状況を感じると言ったら浅はかでしょうか。祈りと思考、発言と対話、活動と全国・国際的連帯行動において、広島教区に生きる者としての「ヒロシマ」からの使命を刷新する「復活」を迎えたいです。

林尚志神父

講演の中で「過去を忘れず心に刻むことは、未来に向かつて歩みを起こすことです」という平和アピールの言葉を心に留めました。回心をしキリストの生き方を思いながら、平和を願いたいと思います。

***倉敷教会でユニティ岡山鳥取が初めての試みとして、英語での黙想会を開催**

二月二十六日、「一つになろう」というテーマでバルト神父のお話、赦しの秘跡、ミサが行われました。岡山教会でもしてほしいとの希望があり、来年度の活動として企画する予定です。

広島地区

***地区司祭の集い**

日程：四月十二日(水)、五月二十九日(月)
時間：十時～十二時四十五分
場所：広島カトリック会館

***地区女性連合会 総会**

日程：五月十二日(金)
時間：十時～十五時
場所：世界平和記念聖堂

ミサ司式・講師：白浜司教

***地区宣教師牧評議会**

日程：五月十四日(日)
時間：十四時～十六時
場所：広島カトリック会館

***地区召命祈りの集い**

日程：六月十七日(土)
時間：九時半～
場所：呉教会

教 区

***第二十九回「津和野への旅」徒歩巡礼**

来年二〇一八年は、浦上キリシタン二十八人が津和野乙女峠に流配されて百五十年の記念の年になります。一八六七年(慶応三年)七月十五日、高木仙右衛門と守山甚三郎など六十八人が捕縛されました。浦上四番崩れの始まりでした。今年の「津和野への旅」を浦上四番崩れ百五十年と来年の津和野乙女峠流配百五十年を心にとめて、祈りのうちに歩きましょう。

日時：五月三日(水)～五日(金)
内容：廿日市教会から乙女峠まで九十キロメートルの徒歩巡礼

・参加希望者は事前申し込みが必要です。

***マリッジ・エンカウンター・ウィークエンド**

ご夫婦・司祭・修道者のために「より豊かな結婚・修道生活をめざして」家庭や社会においてさまざまな関わりを、二泊三日で深める体験的プログラムです。

日時：九月二十二日(金)

二十時～二十四日(日)十八時

場所：下関労働教育センター

連絡先：富山信行・浩子

084-962-1295 (福

山教会) / 坂井恒・

美枝子082-507-

5205 (観音町教

会) / 瀬川憲昭・由

生子083-923-1894

(山口教会)



世界平和記念聖堂(工事中)の桜

広島教区の施設

33

松徳学院中学校・高等学校

松徳学院は、一九五六年山陰唯一のカトリックミッシェンスクールとして、聖カンデイダ・マリアを創立者とするイエズス孝女会によって設立されました。長く女子校として教育を行っていました。が、十数年前から男子生徒も受け入れています。中学校一クラス、高校三クラスという小さな学校ですが、小ささ故の生徒への個別指導の充実、生徒同士の親密さなど、家族的な雰囲気の評価され、おかげさまで少子化という時代の波の中でも入学者数を減らすことなく、学校運営がなされています。また、卓球部・バドミントン部・女子バスケットボール部などの部活動も盛んで、県高校総体では、常に小規模校の部では優勝を争っています。進路面では、難関私立大学のみならず、国公立大学への進学者も毎年出ています。

業生がともに学校の還暦を祝ってくれました。

残念なことに今年三月末をもってイエズス孝女会は本学院から退かれますが、イエズス孝女会は、これからも精神的支柱として支えてくださいますし、世界に広がる姉妹校との交流も途絶えることなく続いていきます。シスター方がいらつしやなくなっても、学院はミッシェンスクールの旗を降ろすことなく堅持し、むしろより一層生徒・教職員が一体となって「ミッシェン」の実現に邁進する決意を固めています。

山陰唯一のカトリックミッシェンスクール松徳学院を、どうかみなさんも応援してやってください。



昨年10月21日、白浜司教司式の創立60周年記念ミサの様子(ミサが始まって間もなく、鳥取中部大地震が起きました)

NW M i n 東京
に参加して



参加者全員で記念撮影

先日、第三十七回ネットワークミーティング in 東京に参加するため、神奈川県へ行って参りました。今回のネットワークミーティング(以下、NW M)は、三月十八日〜十九日にかけて一泊二日の日程で開催されました。

そもそもNW Mって何?と思われる方も多いのではないのでしょうか。NW Mとは、日本全国からカトリックの青年が集い、今抱えている問題や信仰のことなどを分かち合う

たり、他の地域の青年と活動の情報交換をしたりする場です。年に二回教区持ち回りで開催されており、今回は、東京・横浜・さいたまと三教区の合同スタッフにより作り上げられました。(その為、i n 東京と言いつつも、開催地は神奈川県にあるカリタス女子短期大学でした。)中心地に近い場所での開催という事もあり、参加者だけで一六〇人参加しました。

「いつてらっしゃい!」というテーマで開催された今回のNW M。分かち合いの中、いつてらっしゃいには、また帰ってきてねというニュアンスが含まれているという話が出ました。私自身NW Mに参加するのは四回目です。でにたまたま!と言つて帰って行きたくなる集まりです。ただいまと言える場所はどこなところだろうか。私にとつてのそれは、温かくて安心できて、なによりおかえりと言つてくれる人が居る場所です。NW M、教会、もちろん

「司祭叙階の恵みを頂き、

神様に感謝、皆様に感謝!」

ペトロ ホアン・ドウク・ロイ 神父



先日は、私の司祭叙階式の為に、心を合わせてお祈り頂き、喜びを共にしてくださいました。深く感謝申し上げます。私にとりましては感慨無量の喜びでした。

アレキシオ白浜満司教様をはじめ、司祭団の皆様、修道者の皆様、多くの信徒の皆様が叙階

式にご参列頂きました事を心より感謝いたします。私は、司祭職を中学生の頃より目指していました。日本に来て、日本カトリック神学院で六年間養成していただきました。その間、神様がいろいろな形で絶えず私に恵みを注いでくださいましたことをこの度、改めて感じました。これまで多くの方々にお祈りと励ましを頂いたからこそ、叙階された日は、私にとりまして「人生の春」となりました。このお恵みによって、これからの人生は、変化していくことで

しょう。これもすべては、神様からの無償の賜物です。

い。よろしくお願いいたします。

広島教区の司祭団の皆様、私を司祭団に加えて頂きとても嬉しいです。しかし、司祭に叙階されたとはいえ、知識も経験もまだまだ不足していますので先輩として、兄弟として引き続き教えお導きください。これまで教えて頂きました事は、これから司牧の現場で具体的に実践していきたいと考えています。よろしくお願いいたします。ここまで進むことができたのも皆様の御陰です。長い間、絶え間ないお祈りとたくさんのお励ましを頂きましたことを心から感謝申し上げます。これから順境の時も逆境の時も皆様と共に歩むことができますよう私をたくさんのお祈りで支えてください

私は、ベトナムを離れ、日本に来て長年準備し司祭叙階の恵みを頂くことができました。これまで精一杯努力しましたが、まだまだ十分ではありません。これからも皆様と共に豊かな学びを続けたいと思います。国籍を越え、文化を超えて、皆様と共に一つの信仰のもとに生きる事ができますよう祈つて頂きたいと思つています。また、召命のために祈り、犠牲を捧げてくださっているすべての方々、特に一粒会の方々を祝福し、それぞれがその勤めを喜びの内に果たしていくことができるよう神様のお恵みを祈つて参りたいと思つています。引き続きご支援とお祈りをお願いいたします。

ひび



92



(幟町教会 益田なお)

家族が待っている家も。私は沢山ただいまを言える場所がある。それはとても幸せな事なのだと感じました。
私事になりますが、この四月から中塚汐音さんと共に広島司教区カトリック青少年情報センターで勤務させていただきます。私はここから「いつてらっしゃい」と「おかえりなさい」を言える場所を作りたい!そう強く思わせるNW Mでした。未熟者ですが、皆様に見守っていただけると嬉しいです。宜しくお願ひ致します。

教区創立百周年に向けて新しいチャレンジが始まりました。「教会へのチャレンジ」。春休みになったばかりの先日、ちょうど中ブローが開催されていた。まさにチャレンジ真っ最中の人たち。高校生たちのパワー、スタッフのパワー、これからの広島教区の力になりますように。(かぴ)